

## 第70回 山口県公衆衛生学会 特別講演

### 演題 生物多様性異変と感染症リスク ～ワンヘルス・アプローチの意義と課題

講師 こか こういち  
五箇 公一

(国立環境研究所 生物多様性領域 特命研究員)

#### 〈プロフィール〉

##### ○略歴

- 1990年 京都大学大学院昆虫学専攻修士課程修了
- 1990年 宇部興産株式会社農薬研究部
- 1996年 京都大学博士号（論文博士）取得（農学）
- 1996年 国立環境研究所入所

民間企業勤務時代に殺ダニ剤開発に携わり、薬剤抵抗性進化の研究から、遺伝的多様性の重要性を期せずしてダニから学び、博士論文として成果をまとめ、京都大学に提出。

国立環境研究所に入所してからは、ヒアリなどの外来生物防除、ネオニコチノイド系殺虫剤などの農薬リスク管理、および新型コロナを含む人獣共通感染症対策など、様々な生態リスク研究を通じて、生物多様性と人間社会の関わり方および持続性について模索している。

著書に『クワガタムシが語る生物多様性』（集英社）、『終わりなき侵略者との闘い〜増え続ける外来生物』（小学館）、『これからの時代を生き抜くための生物学入門』（辰巳出版）など。

国や自治体の政策にかかる多数の委員会および大学の非常勤講師を勤めるとともに、テレビや新聞などマスコミを通じて環境科学の普及啓発に力を入れている。特に2016年にメディアの取材を通じて新型コロナ・パンデミックを予見する発信をしていたことが後に話題となる。